透かしを削除する Wondershare PDFelement

《発行所》
一般社団法人　岡山県医療ソーシャルワーカー協会

《事務局》
倉敷市玉島乙島4030
玉島病院内

岡山県医療ソーシャルワーカー協会ニュース

2021・9・1　No.30

《発行責任者》
森　田　千賀子

《編集者》
長瀬　紀子　有友　公
田中香緒里　森川　恭成

ソーシャルワーカーの倫理綱領

岡山県医療ソーシャルワーカー協会
会長　森田　千賀子

本年度の総会で、岡山県医療ソーシャルワーカー協会の「倫理綱領」が改定されました。これは国際ソーシャルワーカー連盟が2014年に採択した「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を受け日本ソーシャルワーカー連盟が2020年7月に「ソーシャルワーク実践の拠り所とする」とし、同年10月に日本医療ソーシャルワーカー協会総会において「ソーシャルワーカーの倫理綱領」として承認されたのを受けたものです。新しい倫理綱領では、「ソーシャルワーカーは、（中略）人々がつながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現をめざす専門職」「ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である」と定義し、マクロ視点が強調された定義となりました。〈人間の尊厳〉〈人権〉〈社会正義〉〈集団的責任〉〈多様性の尊重〉〈全人的存在〉の6つの「原理」を示し、今までの「価値と原則」より、より普遍性を持ち、ソーシャルワーカーが実践の場で専門職として、クライエントをどのように捉え関わるべきか、どのような社会を目指すべきかが明確にされました。これらの原理をもとに、〈クライエントに対する倫理責任〉〈職場組織に対する倫理責任〉〈社会に対しての倫理責任〉〈専門職としての倫理責任〉の倫理基準が整理されています。

現在、新型コロナウィルス感染症によって医療機関には、治療・感染症対策・ワクチン接種など様々な任務が課せられています。その中で私たち医療ソーシャルワーカーが出会う患者さんやそのご家族もまた、新型コロナウィルス感染症により多かれ少なかれ影響を受け、感染対策を踏まえた私たちの支援の在り方も試行錯誤の日々が続きます。感染症対策がもたらす社会への影響は計り知れず、人々の生活様式を一変させ、子供から高齢者に至るまであらゆる年代の人の生活を変えています。その変化に対応できない人・倒産による失業や休業による収入減・繋がりを断たれ孤立した人など、立場の弱い人にさらに追い打ちをかける事態が広がっています。新たな倫理綱領では、利用者ではなく「クライエント」という言葉が採用されました。医療ソーシャルワーカーの場合、医療を求める患者だけではなく、患者になれない人権を損なわれたクライエントへのアウトリーチや権利擁護も含んだ受診受療援助も倫理責任であることを忘れてはいけないと考えます。また倫理綱領にある〈社会正義〉には、社会正義の実現を損なうもの（差別・貧困・抑圧・排除・無関心・暴力・環境破壊など）に、新たに「無関心」が追加されました。コロナ禍での様々な課題に目をそらさず向きあい取り組んでいくこともまたソーシャルワーカーの責務と言えます。

倫理綱領は専門職を専門職たらしめるものです。私たちソーシャルワーカーは専門職としてどのような実践を目指していけばよいのか、あらためてこの倫理綱領を認識し、「原理」に基づいた実践を取り組んでいきたいと思います。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

コロナ禍でのつながりの工夫

玉島協同病院　八谷直博

新型コロナウィルスが猛威を振るっています。私の勤務している病院はいわゆる中小病院の類に含まれます。地域に密着したかかりやすさ、小回りのききやすさが「ウリ」の病院です。それがコロナ感染状況の悪化に伴い大きく変化しました。地域住民に開放していたホールの使用中止、ボランティアの受入中止、小地域ケア会議や地域の催しなどに病院が呼ばれることも無くなりました。そして、入院患者の面会禁止・サービス担当者会議やカンファレンス・退院前訪問の制限と、地域・患者・家族と病院のつながりの機会が無くなり、患者さんは病院受診をためらうようにもなりました。病院も発熱患者の対応に敏感となり、ピリピリした空気が常に流れています。世の中に閉塞感、孤立感の空気が流れています。病院も特別な場所のように見られ、地域から孤立しつつあるように思えます。医療ソーシャルワーカーとしても感染対策は致し方ないと思いながらも、患者、地域住民が孤立していきやすい現状に危機感を感じています。

この間ＩＴ技術が一気に広がり日常的にオンラインを使用した取り組みがおこなわれています。在宅ワークは日常的となりました。病院でも患者・家族との接点が感染対策をしながら増やせるよう、オンライン面会を導入している機関が増えました。当院でもＺｏｏｍを利用したオンライン面会をおこなっています。画面上で時間制限もある面会ですが、患者・家族のうれしそうな表情に触れると、工夫次第でもっと多くのことができるのではないかと感じます。

今回、当院の周辺の９病院に簡単な聞き取り調査をおこないました。調査項目は、①緊急事態宣言を受けて対応変更の有無②患者面会の可否、その方法③退院前カンファレンスやサービス担当者会議開催の有無と方法④退院前訪問等訪問活動の有無⑤介護認定調査の方法の５点です。聞き取り時期は岡山県に緊急事態宣言が出た直後でコロナ陽性者が多く出ている厳しい時期でした。調査の結果、緊急事態宣言が出たことで、対応を変えた病院が２か所あり、面会を完全禁止、カンファレンス等をオンラインに一本化したというものでした。患者との面会は全ての病院で原則禁止でしたが、多くの病院でオンライン面会をおこなっていました。医師の特別許可があれば面会可能な病院でも時間制限や個人用防護具装着が必要でした。カンファレンスや退院前訪問は必要最小限の参加者でおこなっているところ、オンラインを活用しおこなっているところ、全くおこなわないところと分かれました。全くおこなわない病院では書面での情報交換をおこなっていました。訪問活動もおこなわない病院の方が多かったです。認定調査の対応も基本的に病室のある階以外の場所で短時間という病院が多かったです。調査員に個人用防護具着用を求めている病院もありました。オンラインを使用しているところもありました。

感染対策と患者・家族とのつながりは相反するもので、どちらも必要なことです。今回の聞き取り調査でそれを両立する方法を各病院で工夫している姿が浮かび上がりました。正解や推奨例もない状況ではこのようにお互いの工夫を共有し発展させていくことが重要だとも感じました。医療ソーシャルワーカーはクライエントと関係者との橋渡しをおこなう大きな役割があります。コロナ禍でそのことをどのようにおこなうのか、知見を結集し見出していくことが大切です。

各病院の新型コロナ対策現状（2021/5/17）

病院名	A病院	B病院	C病院	D病院
緊急事態宣言受けての対応変更の有無	無	有 面会規則を変更（DR特別許可面会をなしとした）	無	無
患者面会	基本オンライン	基本オンライン 申込みはスマホから。家族は自宅からオンライン面会	オンラインのみ 家族は病院１階、患者は病棟	面会は基本なし（DR許可あれば可） オンライン面会もしていない
退院前カンファレンス、サービス担当者会議	○	Zoom使用 処置の様子を動画に撮り渡すこともある	× 書類で情報交換 オンラインで参加	○
退院前訪問	○	○	×	○
介護認定調査	病室ではなく場所を変えて 患者面会時間は５分		病院１階でNSが対応 患者本人はオンラインで参加	病室に入ってもらい短時間会ってもらい、その後はNSと情報交換

E病院	F病院	G病院	H病院	I病院
無	有 退院前カンファレンスやサービス担当者会議をZoomでおこなうこととなった	無	無	無
基本オンライン 家族は病院１階受付、患者は病棟	面会は基本なし（DR許可あればフルPPEで可） オンライン面会もしていない	基本オンライン	面会は基本なし オンライン面会もなし	基本オンライン タブレット使用し病棟と１階
○	Zoom使用	○	×	×
○	×	×	×	×
病棟とは違う場所に患者移動し調査	病棟とは違う場所に移動し調査	病棟とは違う場所で 調査員はガウンとフェイスシールド着用	ロビーにておこなう 調査員はマスク、シールド	別室に移動し調査 調査員はマスクとフェイスシールド

透かしを削除する Wondershare PDFelement

新型コロナウイルス感染症から研修部が学んだこと

岡山県医療ソーシャルワーカー協会 教育研修部
大田 真一

2020年1月に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大に、当協会の研修運営も大きな影響を受けました。すでに申し込みを受け付けていた2019年度2月、3月の研修は中止せざるを得ませんでした。2020年度を迎えても各医療機関における感染防止対策の対応に追われ、研修を企画できるような研修部の体制を整えるまでに時間を要しました。ようやく7月に研修部オンライン会議の開催にこぎつけましたが、オンライン会議未経験の会員からの不安の声が聞かれ、通信環境や会議スペースの確保などハード面が整っていない機関もありました。オンライン会議で話し合うことに多少の手ごたえを感じ、新たな研修の形に繋がる第一歩となりました。

2020年度の研修企画の立案に際し、入会1年目から3年目までの基礎コース研修では、研修開催に関する調査を実施しました。2020年7月時点のZoom利用歴は39%でした（n:87名）。オンライン研修を受講する場所は、職場と自宅両方可能との回答が28%でした。

また調査と同時期に「岡山県医療ソーシャルワーカー集合研修開催マニュアル」の策定に着手しました。マニュアルは、1．感染拡大防止に向けた研修開催の考え方、2．研修開催基準（条件）について、3．集合研修参加者が遵守すべき事項、4．集合研修実施時の感染拡大予防策、5．集合研修に参加した者から感染が判明した場合の対応、という構成です。会員が集合研修に参加する場合の遵守事項を定めることと、研修開催の判断基準を定めることを目的としました。

このような準備期間を経て、9月に当協会として初となる基礎コース研修をオンラインにて開催しました。参加者からは、講義は問題なく視聴できたが、グループワークでは発言しにくかった、一部通信障害などトラブルがあったなどの感想がありました。これらの経験からオンライン研修のスムーズな運営と、研修成果を向上させる方法の模索を続けています。

2020年度は基礎コース研修3回、ステップアップコース研修1回、専門コース研修1回、指導者コース研修1回、計8回の研修全体研修2回、その内1回を集合研修として開催することができました。

研修部で2020年度の研修を振り返りました

◎オンラインの良さ、これからも引き続き活用

当協会では主にZoomを使用しますが、何度か使用していると運営側、参加者共に操作に慣れていきました。しかし、オンライン会議で企画を議論する場合、事前準備や司会進行の工夫がなければ長時間を要します。会員は県内全域に点在しており、移動時間の解消という面からは会議や研修への参加のハードルは下がりました。オンライン研修では参加者に対して事前説明が重要であることが見えてきたため、現在オンライン研修に関する手順書の作成に着手しています。今まで紙で行っていたアンケートは、Google フォームを使用することにより回収率の向上、回収後の集計作業の簡略化に繋げることができました。

◎集合研修でしかできないことがある

基礎コースの対象者は、横の繋がりを作ることも重要であり、喜びや悩みを互いに理解し合うことで支え合う機会を確保しなければなりません。2020年度のオンライン研修では面接技術向上のためのロールプレイは未実施、また個人情報保護の観点から実際の事例を用いた事例検討は未実施でした。2020年度の研修成果の検証と、今後のオンライン研修の内容の検討が課題として残りました。

◎研修機会の保障

研修参加人数や学びに対する会員の意識は変わっておらず、研修機会の保障をしていかなければならないと感じました。ただ、例年の開催回数（オンライン含む）を確保するには、今まで以上に効率的に企画運営していかなければなりません。

オンライン研修の企画運営を経験できたことは大きな学びとなりました。各研修コース担当者が協力し、カバーし合う場面が多かったことは印象的でした。2021年度は更に研修参加者への配慮、研修内容の充実、集合とオンラインを融合させたハイブリッド型研修の計画などを進めています。今後も研修部では研修を開催することを目的とするのではなく、医療ソーシャルワーカーとして着実な成長に繋がるような研修機会の提供をしていきたいと考えています。

岡山県医療ソーシャルワーカー協会 会長表彰 受賞者

会長表彰
岡山協立病院 吉田 知代 氏
南岡山医療センター 有友 公 氏

透かしを削除する Wondershare PDFelement

2021年度 一般社団法人 岡山県医療ソーシャルワーカー協会役員・運営委員

職名	氏名	所属
会長	森田　千賀子	水島協同病院
副会長	長瀬　紀子	倉敷中央病院
〃	山川　ちづる	岡山ひだまりの里病院
常任理事	有本　明美	玉島病院
〃	原田　久美子	みわ記念病院
〃	若林　里佳	水島中央病院
理事	有友　公	南岡山医療センター
〃	大久保　亜紀	岡山市立市民病院
〃	大田　真一	さとう記念病院
〃	片岡　志麻	岡山旭東病院
〃	新名　早希子	倉敷スイートホスピタル
〃	鈴木　智恵	川崎医科大学総合医療センター
〃	田中　香緒里	佐藤病院
〃	八谷　直博	玉島協同病院
〃	松倉　翔	しげい病院
〃	宮松　聡美	瀬戸内市立瀬戸内市民病院
〃	宗　好祐子	岡山赤十字病院
〃	森川　恭成	つばさクリニック
監事	石橋　京子	岡山大学病院
〃	横山　幸生	かとう内科並木通り診療所
顧問	池田　恵子	老人保健施設白梅の丘
運営委員	池田　明憲	津山第一病院
〃	板野　宏美	岡山ひだまりの里病院
〃	榮田　勇希	藤田病院
〃	大野　ひとみ	玉島病院
〃	河原　直美	セントラルシティ病院
〃	神﨑　晴子	まび記念病院
〃	柴田　由紀子	岡山県健康づくり財団附属病院
〃	芦田　早織	泉リハビリセンター
〃	高岡　憲一	倉敷平成病院
〃	田中　志野	渡辺胃腸科外科病院
〃	難波　由紀恵	岡山協立病院
〃	富田　愛子	あさのクリニック
〃	沼本　晋平	吉備高原医療リハビリテーションセンター
〃	萩原　仁美	芳野病院
〃	林　拓樹	岡山リハビリテーション病院
〃	日髙　千陽	岡山大学病院
〃	福田　佳奈	岡山西大寺病院
〃	松尾　成哲	水島中央病院
〃	松下　文香	心臓病センター榊原病院
〃	松岡　邦彦	茶屋町在宅診療所
〃	眞宮　昌代	光生病院
〃	水野　文彦	岡山中央病院
〃	溝手　知江	済生会吉備病院
〃	三村　陽子	重井医学研究所附属病院
〃	山崎　早苗	中谷外科病院
〃	和田　友美	岡山労災病院

2021年度 事業計画

項目	事業内容
組織の充実強化、会員の資質の向上及び広報活動	・新規会員の加入促進　・医療ソーシャルワークの普及、啓発活動　・研修会の開催 ・年報・協会ニュースの発行　・研究実践奨励事業　・月刊ニュース「オムスワ」発行 ・グループ研修会支援事業　・ホームページの運用 ・医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修（国立保健医療科学院）への参加 ・ソーシャルワーカーデーの取り組み　・会員への情報配信の検討　・会員間の交流の場の検討
関連職種団体との連携	・岡山県社会福祉協議会の会員としての出席　・岡山県介護保険関連団体協議会への出席 ・倉敷市介護認定審査会運営委員会への出席　・倉敷市介護認定審査会への出席 ・ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会・岡山の会議出席　・岡山県難病相談支援センター運営協議会出席 ・ＮＰＯ法人岡山高齢者・障害者支援ネットワークへの参加　・岡山県精神保健福祉協会への協力 ・関連団体実施事業の後援　・日本医療ソーシャルワーカー協会の事業への協力 ・全国医療ソーシャルワーカー協会会長会議への出席　・岡山市依存・嗜癖関連問題対策審議会への出席 ・津山市社会福祉協議会　津山市地域包括ケア会議委員会への出席　・津山市在宅医療・介護連携推進事業会議への出席 ・真庭市地域包括支援センター真庭市地域包括ケア会議への出席　・備前市在宅医療・介護連携推進協議会への出席 ・倉敷市在宅医療・介護連携推進会議への出席　・岡山県エイズ医療等推進協議会出席 ・岡山県在宅推進協議会への出席　・岡山県地域包括ケアシステム学会への協力 ・岡山県地域両立支援推進会議への出席　・岡山災害派遣福祉チーム（DWAT）推進会議への出席
運営会議	・岡山県医療ソーシャルワーカー協会総会　・岡山県医療ソーシャルワーカー協会常任理事会 ・岡山県医療ソーシャルワーカー協会理事会　・組織検討委員会　・各部運営会議
社会活動	・岡山県難病医療福祉相談会への相談員の派遣　・ハンセンボランティアゆいの会への協力 ・ＮＰＯ法人岡山高齢者・障害者支援ネットワーク主催相談会へ相談員の派遣　・大規模災害の支援活動

編集後記

2021年７月23日１年越しで東京オリンピックが開幕しました。昨年から新型コロナウイルスが世界的に拡大し、感染防止として１人１人の日常にマスク着用をはじめ、距離間を保つなど目まぐるしい生活変化がありました。

当然、私たち医療ソーシャルワーカーの仕事のやり方も変化しました。面会制限から対面が十分できない、面談を行うときもフェイスシールド・アイシールドを装着するなど、患者、家族の意向を十分引き出すことが難しい環境になりました。コロナ禍前のソーシャルワーカーの仕事が異例だったのかと思うこともありました。

一方で患者・家族も面会制限や三密を避けようと入院や外来医療から在宅医療へ移行希望する方もいました。私が働く訪問診療も患者や家族からの相談が増え感染が導いた意思と思いましたが、中にはやむを得ず在宅医療を選択し「家に帰ったけどこんなはずではなかった」と言われ難しさを感じることもありました。

新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに今後どう生活していくか話をされた方もいると思います。感染をはじめ災害・病気の発症は予期せぬ事態です。万一の備えとして、今後何を大事にして生きて行くかそれぞれが考え、共有していくことが重要です。そのために患者、家族、地域と関わる私たちソーシャルワーカーがACPの重要性を発信することが課せられ、同時に環境制限があるからこそより良い生活へ継ぐため自己研鑽を継続していくことが必要だと思います。

（Y・M）